

附属幼稚園だより 最終号

令和5年3月10日発行 文責:室野亜津子

「したい 知りたい やってみよう」
がいっぱいの幼稚園

御卒園おめでとうございます

入園してからの2年間、3年間、お子さんのために通い続けた附属幼稚園とも今日でお別れですね。お弁当作りありがとうございました。通園には、保護者だけでなく御祖母様、御祖父様もたくさんいらっしゃって、みんなに大切に育ててもらった子どもたちです。

私が園長になったのは令和2年、3年保育のふじ組さんが入園した年です。翌年は2年保育の8名が入ってきました。お子さんが入園したての頃を知っているので、年長になった今の成長、そして卒園には、感慨深いものがあります。

ふじ組さんと卒園式の練習をやってきました。1度目は、将来の夢を言う声が小さかったり、速かったりして、聞き取りにくい状態からのスタートでした。それから何度かステージの上で練習し、今週に入ってから練習では、しっかり声も出てよく聞き取れるようになりました。(もし、今日の本番で聞こえなかったとしたら、それはやはり緊張してしまったのです。それは仕方のないこと。大人でも緊張します。)

1年生になってからでも同じように、初めはうまくいかないことが多いかもしれませんが、でも、子どもは、学び成長するので大丈夫です。経験を積んで必ず伸びていきます。「大丈夫、大丈夫。」と、お子さんに魔法の言葉をかけてあげてください。

幼稚園までは手つなぎ期。しっかり手をつないでお子様と一緒に歩いてこられました。小学校に入ったら、見守り期。少し離れたところから、温かいまなざしでお子さんが徐々に独り立ちしていくのを見守ってください。

ふじ組さん一人一人が、これからどんな花を咲かせていくのか、将来どんな活躍をするのか、楽しみです。

保護者の皆様、本当にこれまで附属幼稚園の教育に御理解と御協力をありがとうございました。心から感謝しています。

長崎大学教育学部附属幼稚園長 室野 亜津子